

# 令和5年度 千葉県公立高等学校入学者選抜に関する協議会 (第3回) 配付資料

	ページ
開催要項	1
委員名簿	2
資料1：令和5年度千葉県公立高等学校入学者選抜に関する協議会（第2回） の概要	3
資料2：令和7年度千葉県公立高等学校入学者選抜日程案	9
資料3：入学者選抜日程決定のためのポイント	11
資料4：アンケート結果より	14
資料5：「今後も検討していく必要があるもの」についての追加資料	15
資料6：令和5年度 千葉県公立高等学校入学者選抜の受検に係る調査結果 のまとめ	19

令和5年11月13日（月）  
ホテルプラザ菜の花 5階「あやめ」



令和5年度 千葉県公立高等学校入学者選抜に関する協議会（第3回）  
開 催 要 項

1 日 時 令和5年11月13日（月）  
午前9時30分から午前11時30分まで

2 会 場 ホテルプラザ菜の花 5階「あやめ」  
千葉市中央区長洲1丁目8-1  
043-222-8271

3 次 第

- (1) 開会のことば
- (2) 教育委員会挨拶
- (3) 報告

令和5年度千葉県公立高等学校入学者選抜に関する協議会（第2回）の概要について

- (4) 協議
  - ① 令和7年度千葉県公立高等学校入学者選抜日程案について
  - ② 現行の千葉県公立高等学校入学者選抜の課題について
  - ③ 入試改善を受けて実施される令和6年度選抜について
  - ④ その他
- (5) 閉会のことば

令和5年度千葉県公立高等学校入学者選抜に関する協議会 委員名簿

No.	氏名	職名	備考
1	佐藤 智司	千葉大学 副学長	大学関係者
2	谷口 和巳	淑徳大学 千葉キャンパス アドミッションセンター 千葉オフィス課長	大学関係者
3	吉野 毅	千葉県商工会議所連合会 専務理事	企業関係者
4	横瀬 正史	千葉県立幕張総合高等学校長 (千葉県高等学校校長会 会長)	高等学校校長会 会長
5	武富 恒徳	千葉県立市原八幡高等学校長 (千葉県高等学校校長会 高校入試対策委員長)	高校入試対策委員長
6	日根野 達也	船橋市立宮本中学校長 (千葉県中学校校長会 会長)	中学校校長会 会長
7	三浦 明久	印西市立木刈中学校長 (千葉県中学校校長会 進路指導部長)	進路指導部長
8	酒井 昌史	茂原市立萩原小学校長 (千葉県小学校校長会 会長)	小学校校長会 会長
9	佐久間 勝彦	千葉経済大学附属高等学校長	私立学校代表
10	粕谷 哲也	君津市教育委員会教育長	市教育長
11	石川 和之	長柄町教育委員会教育長	町村教育長
12	鶴岡 克彦	千葉市教育委員会教育長	政令市教育長
13	菊池 清美	千葉県高等学校PTA連合会 会長	PTA代表
14	木村 得道 (國見 亜姫)	千葉県PTA連絡協議会 会長 (千葉県PTA連絡協議会 副会長)	PTA代表

令和5年度千葉県公立高等学校入学者選抜に関する協議会（第2回）【概要】  
（案）

日 時：令和5年10月10日（火）午前10時から正午まで  
会 場：千葉県教育会館本館604会議室

1 出席委員（敬称略・名簿順）

谷口 和巳、吉野 毅、横瀬 正史、武富 恒徳、日根野 達也、三浦 明久、酒井 昌史、  
佐久間 勝彦、粕谷 哲也（副会長）、石川 和之（会長）、鶴岡 克彦、菊池 清美、  
國見 亜姫

2 次第

（1）開会のことば

（2）県教育委員会あいさつ

（3）委員紹介

（4）報告

①令和5年度千葉県公立高等学校入学者選抜における採点誤りについて

②令和5年度千葉県公立高等学校入学者選抜について

ア 結果について

イ 調査書の評定について

ウ 中学校及び高等学校からの意見について

③令和6年度千葉県公立高等学校入学者選抜について

ア 入試日程について

イ 令和6年度千葉県県立高等学校第1学年入学者選抜要項について

ウ 選抜方法について

④ その他

（5）協議

① 現行の千葉県公立高等学校入学者選抜の課題について

② 令和7年度千葉県公立高等学校入学者選抜日程案について

③ 入試改善を受けて実施される令和6年度選抜について

④ その他

（6）閉会のことば

3 報告に対する意見・要望等

① 令和5年度千葉県公立高等学校入学者選抜に関する協議会（第1回）の概要について

② 入学者選抜の受検に係る調査の結果について

## 4 協議内容

### ① 現行の千葉県公立高等学校入学者選抜の課題について

#### 視点の1「入学者選抜を一本化したこと」について

- ・一本化により教職員の入学者選抜業務による負担軽減が大幅にされ改善されたと思われる。
- ・特色化選抜がなくなり、一本化したことにより、今後どのような特色を打ち出し、選抜につなげていけばいいのかが課題である。
- ・一本化前は、前期選抜で挑戦し、後期選抜に現在の自分に実力に応じた学校の選定を考えていた。ただ、前期選抜で落ちた生徒には、絶望感が大きい子もいた。一本化したことで生徒が、現実を見つめる時間ができたことが肯定的な意見となっているのではないかと。
- ・不安は減少傾向にある。

#### 視点の2「学力検査の日程」について

- ・2月下旬は適正であると職員より聞いている。調査結果を踏まえ、2日間の実施についても、受検者の負担を考え、適当であったと捉えている。
- ・2月下旬の本検査実施については、校長や職員も適切であると感じている。授業時数の確保、教科書の進捗等、授業を進める上でも、先生方は余裕を持って実施している。
- ・2日間実施の学力検査は、授業時間の確保等、生徒に配慮していると感じる。実際、学校の定期テストも2日間で実施する学校は多く、先生も受検に対して配慮している。
- ・公立高校受検日は、私立高校受験日から半月空きがあり、私立高校だけを受験した生徒と、公立高校を受検する生徒で差があることが気になる。私立高校、公立高校の受検日の空き期間を短くできないかと感じた。
- ・県立高校入学者選抜の改善方針、検査実施時期は2月下旬の2日間で実施したのが2年前の案で、東京、神奈川、埼玉が2月下旬に実施した。また、平成30年から近隣都県の入試日程の資料では、東京、神奈川とも日程は殆ど動いていない。対して、千葉県は毎年のように日程が変更となっている。しかし、アンケート結果等でも肯定的な意見が多いことから、2月下旬の実施で問題性はないと判断した。
- ・高校と大学とは入試の流れも回数も違うが、一本化で負担が減ること、2月下旬にそれぞれの学校で認識をもっていること、アンケート結果から改善が見られたことから、学力検査日の日程には賛同している。

#### 視点の3「調査書」について

- ・中学校は、気を使って調査書作成に臨んでいる。高校は合否の判定よりも、どのような生徒を受け入れて、どのように指導していかなければならないかを確認する意味で、調査書は役立っており、時間をかけてみている。
- ・中学校の先生に負担をかけているが、どのような記載方法が適切であるか、毎年考えながら進めていく必要があると受け止めている。
- ・評定平均の9.5が廃止されたことは、校長の中でも、肯定的・否定的回答が分かれている。これは、9.5を超えた学校は肯定し、厳しめの評定をつけた学校はいかなるものかと感じている。

- ・受検者が自分の評定合計とその平均の操作については不透明である。
- ・評価の観点が増えたことで評価をつけることが難しくなり、正当な評価をしていくことが課題になる。
- ・現行のままでよい。
- ・どのような生徒を育てていくか、そのための観点をみるために調査書は必要である。
- ・書き手や学校によって、内容の違いが生じることは難しい問題と感じている。
- ・企業では、採用する人がどのように育ててほしいかを考えながら採用に至る。就学時では、子どもはまだ粗削りなところがあると思われることから、調査書の作成にはある程度標準的な評価方法や表現が必要であると感じる。

#### 視点の4 「学力検査」について

- ・英語の検査が60分に変更となったが、リスニングの占める割合が増えていることも考えると60分は、適当ではないか。
- ・英語のリスニングは非常に大事だと思うので、60分になったことについて、6割強の中学校の校長先生が肯定的というのはよくわかる。
- ・5教科同じ時間の方が良いと思う。なぜなら、定期テストも中学校はそれに合わせて時間割を組む。英語が60分になったことで、英語のテストは60分、他のテストは50分になり、1日の時程の組み方も少し変わってくる。そういったことで、生活の中のリズムがずれてしまう。
- ・高校入試対策委員会で調査したところ、「国語の聞き取り検査について、国語の学力を測る上で必要か」というような問いかけについては、およそ44%の公立高校の校長が、「そう思わない。」「あまり思わない。」と回答している。個人的には、出題の方向性も色々あるかと思うが、今後は廃止または改善というような検討をお願いしたい。
- ・国語の方に関しては、9割前後が肯定的だという回答だが、意外と国語科の先生に聞くと、聞き取りに関しては、「本当に必要か」という意見が出る。実際に授業を担当している国語科の先生方にアンケート取った場合は、肯定的、否定的の数字が少し変わるような気がする。
- ・国語の読み取りに関しては、入学後にその内容に関して、何かしらメリットがあるのか、多角的にアンケート等を取りながら考える必要がある。大学の場合は、小論文試験によって、テーマについて思考力、論理的判断能力を審査している。
- ・なぜ今、「国語の聞き取りは必要なのか」という問いが出たのか。社会情勢が変わったのか、高校の受け入れが変わったのか、時代背景なのか、背景にあるのは何なのかを整理しないといけない。「必要ないのではないか」という印象でやるのは、まずい。しっかりと議論する必要がある。
- ・国語の聞き取りは、社会で必要な能力だと思うが、学力検査の場で本当に必要なのかは、学力検査の枠の中でみていく必要がある。
- ・検査を運用している立場では、できれば放送による検査については、少ない方がいい。施設面で放送施設が老朽化している学校も多くあるので、放送事故のリスクというのが非常に大きい。リスクマネジメントの面からしても、軽減になるのかと思う。
- ・リスニングは機材を用いる操作があるので、余裕を持った時間設定は必要がある。

- ・無解答の問題は、「最初から問題を解く」、「一度見渡して、できるものから解く」という戦術的な場合と、順番に解いて最終的に時間がなくなる場合の実態もあると思う。また、とりあえず選択肢を選んで解答する受検者もいるし、難しい話だと思う。
- ・問題の難易度について、問29で難易度についての理由があるが、数字だけでなく、それぞれの科目の平均点と照らし合わせて解答の数との整合性が取れているか等のデータの見方をした方がいい。
- ・英語の時間や国語の聞き取り検査は、時間をかけて検討し導入した。課題がある場合は意見を集約して、改善箇所を考える必要がある。
- ・放送設備の問題は、国語だけでなく、英語も同じだと思うので両方ともしっかりとやるのが前提だと思う。

## ② 令和7年度千葉県公立高等学校入学者選抜日程案について

- ・2月下旬となって4年間しかたっていない。A案からB'案は2月の中旬である。何を拠り所にして入試日を決めるのかを踏まえるべきである。この4つの中から選ぶことに非常に問題を感じる。
- ・4案は「2日間の検査日の間に休日を挟まず、検査前日直後は週休日とならない。」などを拠り所としているが、他都県であれば日曜日が入試日のところもある。検査日が月曜日になり、金曜の準備が難しいのであれば、採点誤りを防ぐために臨時休業日を増やすことができるとしていたので、土曜、日曜を検査日にし、その分を振替休日にすればいいと思う。もう私立高校がやっている。
- ・以前県立中学校の入試日を、土・日曜日を避けるように実施していたが、東京、神奈川県等々では入試の日程が決まっており、公立の日程が決まらなると私立中学校の試験日の設定できず困るということで、県立中学校の入試日を固定した。
- ・公私の話合いで、振り替え休業日を設定することはできると、県教育委員会の担当者がきちんと答弁している。一本化した際に検査を2月下旬に実施するという一番最初の決定を踏まえて、C案として20日、21日にするのが、令和7年度選抜ではやむを得ないと思う。  
⇒例えば、出願や発表のシステムなど、一本化してからの3年間で変更した部分もある。今回提案している日程も、採点誤りによる採点日数の確保という面が大きく、それによって検査から発表日までの期間が延びると、卒業式や大学入試などの色々な行事と重なってしまうという心配もあると聞いた。改善方針の案、2月下旬に2日間で実施するということも含め、一本化してからの3年間、4年間の状況を踏まえ、新しい制度に移行して検証する時期にきていると考える。
- ・アンケート調査では、公立生徒、中学校及び私立高等学校長9割程度が、保護者の8割が、公立高校長は6割程度が、日程について現状でいいという結果が出ている。東京、神奈川、埼玉は入試日を日曜と土曜とか月曜にした場合は、どのような形で検査を実施しているのかを調べていただきたい。

- ・公立高校と中学校の先生から様々な意見が出ることで検査日の日程がどんどん前に来ている。同様のことは、東京も神奈川では、どのように対応したのか。働き方改革についても考慮し、中学生にとってどの日に設定するのが望ましいのか、それとも、公立高等学校として、様々な状況から、その時々によって検査日を動かすことが望ましいのかも踏まえて検討して欲しい。
- ・入試日程を検討する際は、入試日程が早い私立学校が多く合格させているから、公立高校も検査日の日程を早めたらいいんだというような理由ではなく、合理的に日程について検証することが望ましい。
- ・例年の中学校長へのアンケートにおいて、入試日程への一番の要望は、本検査の前日を週休日しないことであった。事前の指導や健康管理などの面から、また、コロナ等への対応があっても、前日が課業日であれば高校にスムーズに連絡ができる。そのことが生徒・保護者も一番安心する。
- ・高校は、非常に倍率の高い学校、残念ながら定員割れを起こしてる学校等、学校によって受けとめ方は違う。例えば二次検査を毎年実施する学校の場合、その準備や採点業務があり、受検する人数は少なくとも業務の流れは一般入学者選抜等と同じであり、相応の負担がある。受検生が多いと、処理する件数が非常に膨大で、かなりの時間も取られる。また、当然ミスしてはならないという精神的、肉体的な負担もある。採点誤りを起こさない万全の体制を築くため、二次試験まで含めた処理について余裕ある日程を要望している。
- ・入学者選抜全体で考えると、発表が3月の月上旬、本検査が2日、追検査に1日、出願が2日半、その他志願変更が2日等、利用する日数が決められている。どの案も一長一短、特徴がある。結局何に主眼を置くのかで意見が分かれる。
- ・高校側の入学者選抜の実施運用面として、採点や会議資料の作成等、正確さに重点を置いている。二次検査を含めた余裕のある日程等々を考えると、追検査の後に合格発表まで1日または2日という案が示されており、採点ミスを防ぐための改善策の事や、正確に判定会議を行うための選抜資料を今一度見直す期間も踏まえるという視点で検討すると良い。
- ・何を優先するかによって、どうしても選抜業務等で要する日数が決まっているので、暦の関係で、その時々で日程については、多少動かさざるをえない。
- ・日本の学校が4月始まりだと考えると、どうしても2月下旬に試験を持ってこざるをえないが、第3学期は3ヶ月という短い期間でありながら、非常にタイトな日程で重要な行事が設定されている。卒業認定考査、入学者選抜検査、追検査、進級考査、卒業式、入学候補者説明会、終業式、募集等、教職員の負担が多い。
- ・中学校の卒業式が3月の1週目の週末等にあることを踏まえると、その頃に高校が決まっていない中学生も、卒業式の練習や卒業に向けての活動がある。試験日、発表日が遅くなるにつれて保護者としては、公立高校に合格できず、私立高校に入学するとなると、準備のための日数がすごく少ない。少しでも早いほうがいいと。現在の案の数日の変化で何か違いがあるのか。  
⇒授業時数確保や、様々な立場からの要望の折衷案でもあり、わずかな違いに見えるかもしれないが、多様な意見を踏まえたものである。

- ・検査の日付を固定する考えもあれば、例えば第3週目の水曜日、木曜日のように曜日を固定する考えもある。下旬という定義をしっかりと確認する必要がある。出願の受け付けについても同様である。そうすることで大体毎年千葉県はこの日程だということがわかり、公平性も出ると思う。
- ・保護者の立場、生徒の立場など、様々に考えるとなると、検査日の交通事情なども考えられていると思う。多角的に考えていくことが必要である。
- ・検査後に必ずウィークデーが入るなど、学校における採点の都合や、先生方の精神的な面だけでなく、間違いが起きないように様々な配慮をされていると思う。多角的な考え方のどこを重視するのかについて、様々な意見があると思うので、決めた方法でやってみると良いのではないか。
- ・2月下旬と決めているのであれば、なるべく合わせるのは当然だと思う。日程を決める基準を、日付にするのか曜日にするのか、もう少し枠を広げて考えるか、その時の状況に合ったやり方をとるべきだと感じた。
- ・子供たちにとって公正公平な試験になることが話合いの趣旨だと思う。期限が決まっているのであれば、リスクが少なく、子供たちにとって公正公平な入試内容になるようための日程という視点で考えることが一つの方法だと思う。
- ・入試にかかる本検査前後の学校行事を含めた子供たちの動きはすごく大事で、色々なことが子供たちに関わってくる。多分ベストな答えは出てこないと思うので、ベターな答えを出していくしかないのではないか。

### ③ 入試改善を受けて実施される令和6年度選抜について

- ・意見無し

### ④ その他

- ・今後の日程について、第3回協議会は11月13日（月）の午前に開催予定。
- ・第3回協議会の会場は、第1回と同様のホテルプラザ菜の花の5階「あやめ」を予定。

A案		B案		A'案		B'案		C案		令和6年度(参考)	
1	土	1	土	1	土	1	土	1	土	1	木
2	日	2	日	2	日	2	日	2	日	2	金
3	月	3	月	3	月	3	月	3	月	3	土
4	火 出願受付	4	火 出願受付	4	火	4	火	4	火	4	日
5	水 出願受付	5	水 出願受付	5	水 出願受付	5	水 出願受付	5	水	5	月
6	木 出願受付	6	木 出願受付	6	木 出願受付	6	木 出願受付	6	木 出願受付	6	火 出願受付
7	金 ①	7	金 ①	7	金 出願受付	7	金 出願受付	7	金 出願受付	7	水 出願受付
8	土	8	土	8	土	8	土	8	土	8	木 出願受付
9	日	9	日	9	日	9	日	9	日	9	金 ①
10	月 ②	10	月 ②	10	月 ①	10	月 ①	10	月 出願受付	10	土 東京都私立一般開始
11	火 建国記念の日	11	火 建国記念の日	11	火 建国記念の日	11	火 建国記念の日	11	火 建国記念の日	11	日 建国記念の日 木更津工専試験
12	水 志願・希望変更	12	水 志願・希望変更	12	水 ②	12	水 ②	12	水 ①	12	月 振替休日
13	木 志願・希望変更	13	木 志願・希望変更	13	木 志願・希望変更	13	木 志願・希望変更	13	木 ②	13	火 ② 筑波大/お茶の水女子大附属
14	金 ①	14	金 ①	14	金 志願・希望変更	14	金 志願・希望変更	14	金 志願・希望変更	14	水 志願・希望変更
15	土	15	土	15	土	15	土	15	土	15	木 志願・希望変更 千葉県私立後期開始
16	日	16	日	16	日	16	日	16	日	16	金 ①
17	月 ②	17	月 ②	17	月 ①	17	月 ①	17	月 志願・希望変更	17	土
18	火 本検査	18	火 本検査	18	火 ②	18	火 ②	18	火 ①	18	日
19	水 本検査	19	水 本検査	19	水 本検査	19	水 本検査	19	水 ②	19	月 ②
20	木 ①	20	木 ①	20	木 本検査	20	木 本検査	20	木 本検査	20	火 本検査
21	金 ②	21	金 追検査受付	21	金 ①	21	金 ①	21	金 本検査	21	水 本検査 埼玉公立/東京都立
22	土	22	土	22	土	22	土	22	土	22	木 ①
23	日 天皇誕生日	23	日 天皇誕生日	23	日 天皇誕生日	23	日 天皇誕生日	23	日 天皇誕生日	23	金 天皇誕生日
24	月	24	月	24	月	24	月	24	月	24	土
25	火 追検査受付	25	火 追検査受付	25	火 ②	25	火 追検査受付	25	火 ①	25	日
26	水 追検査受付	26	水 ①	26	水 追検査受付	26	水 追検査受付	26	水 追検査受付	26	月 追検査受付
27	木 ①	27	木 追検査	27	木 追検査受付	27	木 ①	27	木 追検査受付	27	火 追検査受付
28	金 追検査	28	金 ①	28	金 ①	28	金 追検査	28	金 ①	28	水 ① 茨城県立高
										29	木 追検査
1	土	1	土	1	土	1	土	1	土	1	金 ①
2	日	2	日	2	日	2	日	2	日	2	土
3	月 ①	3	月 ②	3	月 追検査	3	月 ①	3	月 追検査	3	日
4	火 発表	4	火 発表	4	火 ①	4	火 ②	4	火 ①	4	月 発表
5	水 ①	5	水 ①	5	水 発表	5	水 発表	5	水 ②	5	火 ① 私立併願者手続き締切
6	木 ②	6	木 ②	6	木 ①	6	木 ①	6	木 発表	6	水 ② 高校卒業式
7	金 2次受付	7	金 2次受付	7	金 ②	7	金 ②	7	金 ①	7	木 2次受付
8	土	8	土	8	土	8	土	8	土	8	金 2次志願変更 千葉市等卒業式
9	日	9	日	9	日	9	日	9	日	9	土 銚子市卒業式
10	月 2次志願変更	10	月 2次志願変更	10	月 2次受付	10	月 2次受付	10	月 ②	10	日
11	火 ①	11	火 ①	11	火 2次志願変更	11	火 2次志願変更	11	火 2次受付	11	月 ①
12	水 2次検査	12	水 2次検査	12	水 ①	12	水 ①	12	水 2次志願変更	12	火 2次検査
13	木 ①	13	木 ①	13	木 2次検査	13	木 2次検査	13	木 ①	13	水 ① 船橋市卒業式
14	金 2次発表	14	金 2次発表	14	金 ①	14	金 ①	14	金 2次検査	14	木 2次発表 松戸市等卒業式
15	土	15	土	15	土	15	土	15	土	15	金
16	日	16	日	16	日	16	日	16	日	16	土
17	月	17	月	17	月 2次発表	17	月 2次発表	17	月 ①	17	日
18	火	18	火	18	火	18	火	18	火 2次発表	18	月
19	水	19	水	19	水	19	水	19	水	19	火
20	木 春分の日	20	木 春分の日	20	木 春分の日	20	木 春分の日	20	木 春分の日	20	水 春分の日
21	金	21	金	21	金	21	金	21	金	21	木
22	土	22	土	22	土	22	土	22	土	22	金 終業式
23	日	23	日	23	日	23	日	23	日	23	土
24	月 終業式	24	月 終業式	24	月 終業式	24	月 終業式	24	月 終業式	24	日
25	火	25	火	25	火	25	火	25	火	25	月
26	水 追加募集	26	水 追加募集	26	水 追加募集	26	水 追加募集	26	水 追加募集	26	火 追加募集
27	木 追加募集	27	木 追加募集	27	木 追加募集	27	木 追加募集	27	木 追加募集	27	水 追加募集
28	金	28	金	28	金	28	金	28	金	28	木
29	土	29	土	29	土	29	土	29	土	29	金
30	日	30	日	30	日	30	日	30	日	30	土
31	月	31	月	31	月	31	月	31	月	31	日

## 令和6年度選抜及び中学校卒業式日程（参考）

### 【入試関係】

#### 千葉県公立高等学校

選抜等	日程
本検査	令和6年2月20日（火） 2月21日（水）
追検査	令和6年2月29日（木）
第2次募集	令和6年3月12日（火）

#### 千葉県私立高等学校

選抜等	日程
前期選抜（一般）	令和6年1月17日（水）～
後期選抜	令和6年2月15日（木）～

#### 東京都私立高等学校

選抜等	日程
推薦開始日	令和6年1月22日（月）～
一般開始日	令和6年2月10日（土）～

#### 木更津工業高等専門学校

選抜等	日程
学力試験	令和6年2月11日（日）

#### 都立産業技術高等専門学校

選抜等	日程
学力試験	令和6年1月26日（金）

#### 筑波大学附属高等学校

選抜等	日程
学力検査	令和6年2月13日（火）

#### お茶の水女子大学附属高等学校

選抜等	日程
学力検査	令和6年2月13日（火）

#### 茨城県立高等学校

選抜等	日程
学力検査	令和6年2月28日（水）

#### 埼玉県公立高等学校

選抜等	日程
学力検査	令和6年2月21日（水）

#### 東京都立高等学校

選抜等	日程
一次試験	令和6年2月21日（水）

### 【中学校卒業証書授与式（予定）】

市	日程
千葉市、柏市、習志野市	令和6年3月8日（金）
銚子市	令和6年3月9日（土）
船橋市	令和6年3月13日（水）
松戸市、我孫子市の一部	令和6年3月14日（木）

### 【令和5年度】

#### <参考>

日程
令和5年2月21日（火） 2月22日（水）
令和5年3月1日（水）
令和5年3月13日（月）

日程
令和5年1月17日（火）～ 令和5年2月15日（水）～

日程
令和5年1月22日（日） 令和5年2月10日（金）

日程
令和5年2月12日（日）

日程
令和5年1月27日（金）

日程
令和5年2月13日（月）

日程
令和5年2月13日（月）

日程
令和5年3月3日（金）

日程
令和5年2月22日（水）

日程
令和5年2月21日（火）

日程
令和5年3月10日（金） （千葉、船橋、柏、松戸市等）
令和5年3月11日（土） （銚子市）
令和5年3月14日（火） （習志野市）
令和5年3月15日（水） （我孫子市）

## 入学者選抜日程決定のためのポイント

### 1. 高校からの要望、選抜業務の期間

(1) 学力検査から発表までの期間の確保

[学力検査日から発表日までの主な選抜業務]

- ・採点業務、ボーダーライン点検等
- ・追検査にかかる業務
- ・判定会議、Web 発表準備

[意見等]

◇志願変更から本検査までの期間に余裕がない。もう一日あけてほしい。

◇採点処理などの入試業務における、職員の負担軽減が必要。(R5 アンケートより)

(2) 重要行事との兼ね合いを考慮

- ・卒業式：公立高校の卒業式は、おおむね3月6日～8日頃
- ・学年末事務：卒業式翌日から学年末考査、その後成績処理、単位認定会議等の実施
- ・入学許可候補者説明会：第2次募集の発表日に実施する高校もある
- ・人事異動 等

[意見等]

◇卒業式等学年末行事、大学入試と重ならないようにするため、全体の日程を早めてほしい。(入学者選抜に関する主な意見)

◇年度末の行事等もあり早い時期の実施がよい。

◇今の状態だと、入試が終わってすぐに卒業証書授与式、学年末考査と慌ただし過ぎる。またそこに第2次募集が重なってくるので、ミスが起きやすい。

(R5 アンケートより)

(3) 第2次募集・追加募集等の選抜業務、その準備に配慮

◇第2次募集を毎年実施する学校の場合、その準備や採点業務があり、受検する人数は少なくとも業務の流れは一般入学者選抜等と同じであり、相応の負担がある。ミスしてはならないという精神的、肉体的な負担もある。採点誤りを起こさない万全の体制を築くため、第2次募集まで含めた処理について余裕ある日程を要望している。(第2回協議会の御意見より)

(4) 授業時数の確保

◇中学校や高等学校での授業時数の確保について、生徒や中学校・高等学校長からは、8割程度の肯定的回答である。一方で、保護者からの肯定的回答は6割程度である。

(令和5年度アンケートより)

### 2. 中学校からの要望

(1) 学力検査等の前日を稼業日とすること(事前指導、健康観察等のため)

[意見等]

◇中学校長対象にとっているアンケートにおいて、入試日程の一番の要望は、本検査の前日を週休日でない形にして欲しいこと。(第2回協議会の御意見より)

◇検査日前日が土日祝日になる日程は避けてほしい。

(令和4、3年度入学者選抜に関する主な意見等より)

(2) 授業時間数の確保

[意見等]

◇中学校や高等学校での授業時数の確保について、生徒や中学校・高等学校長からは、8割程度の肯定的回答である。一方で、保護者からの肯定的回答は6割程度である。

(令和5年度アンケートより)

(3) 重要行事との兼ね合いを考慮

・卒業式：おおむね3/8、9、13、14日

[意見等]

◇発表から卒業式までの日数が少なすぎて、第2次募集の受検者がいた場合、ケアや指導が十分にできない。

◇卒業式までの日数が少ないため十分な振り返りが出来ない。

(R4 アンケートより)

### 3. 受検者・保護者からの要望

(1) 私立高校を併願する場合の受検期間の長期化を避ける

[意見等]

◇私立試験から間が空きすぎている。1、2週間後がよい。(R5 アンケートより)

◇公立高校受検日は、私立高校受験日から半月空きがあることから、私立高校だけを受験した生徒と、公立高校を受検する生徒で空く期間が結構あることが気になる。私立高校、公立高校の受検日の間隔を短くして受検できないか

(第2回協議会の御意見より)

(2) 学年末の活動、制服等の入学準備期間の確保

[意見等]

◇高校の入学説明会や制服の採寸にもう少し余裕がほしかったのであと1週間程度(本検査の時期が)早い方がよかった。(R5 アンケート公立保護者)

◇合格発表から制服準備の期間が短過ぎる。(R5 アンケート公立生徒)

◇中学校の卒業式が3月の1週目の週末等にあることを踏まえると、その頃に高校が決まっていない中学生も、卒業式の練習や卒業に向けての活動がある。試験日、発表日が遅くなると、公立高校に合格できず私立高校に入学する場合、準備のための日数がすごく少ない。保護者としては、少しでも早いほうがいい。

(第2回協議会の御意見より)

### 4. 私立高校の後期入試等について

(1) 県内私立高等学校後期入試：2月15日～

(2) 私立高校併願者の入学金納入期限等：3月5日～

## 5. 比較表

項目	内容	令和7年度日程案
採点・選抜業務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・採点業務、ボーダーライン点検等</li> <li>・追検査にかかる業務</li> <li>・判定会議、Web 発表準備</li> </ul> 令和6年度選抜は、本検査から発表まで6日間	全ての案で本検査から発表まで7日間
中学校卒業式	中学校：おおむね 3/8, 9, 13, 14	＊以下中学校卒業式を8日と想定 [AB案] 本検査等の発表から中学校卒業式までの稼業日が3日。 [A' B'案] 本検査等の発表から中学校卒業式までの稼業日が2日。 [C案] 本検査等の発表から中学校卒業式までの稼業日が1日。
学年末業務	<b>【高校】</b> 卒業式(おおむね 3/6～8)：1日 学年末考査：4日ほど テスト返却日：3日ほど 成績会議等：3日ほど ＊業務日数合計：11日ほど	[AB案] 本検査等の発表から終業式までの稼業日が12日。1日余裕あり [A' B'案] 本検査等の発表から終業式までの稼業日が11日。業務日数一致。 [C案] 本検査等の発表から終業式までの稼業日が10日。1日不足 高校卒業式に影響(当日、翌日)
入学許可候補者説明会	2次発表日以降に実施 2次発表日に行う学校もある	[AB案]3/14 [A' B'案]3/17 [C案]3/18 ＊2次発表日に実施した場合
入学準備期間	制服の採寸等の入学準備	[AB案]2次発表から3月末まで17日 [A' B'案]2次発表から3月末まで14日 [C案]2次発表から3月末まで13日 ＊土日祝を含む

以上のアンケート結果や協議会での御意見等を踏まえ、入学者選抜一本化の際に出された改善方針に限定せず、必要な改善を行う。

## アンケート結果より

<概ね回答結果が安定しているもの>

- ・問 4 入試を一本化し、検査日を2月下旬にしたことで、高校（中学）の授業時間を確保できたと思いますか。
- ・問 6 入試を一本化したことで教職員の入試業務の負担が減少したと思いますか。
- ・問 10 入学者選抜の一本化は、生徒の志願先選びに影響したと思いますか。
- ・問 11 令和3年度入学者選抜から公立高校の入試制度が変わったことについて、不安はありましたか。
- ・問 12 公立高校の入試制度の変更は受検する高校の選択に影響したと思いますか。
- ・問 14 各学校の期待する生徒像は必要だと思いますか。
- ・問 15 本検査の5教科を2日間で実施したことは、受検者の負担を考えると適切であったと思いますか。
- ・問 21 インフルエンザ罹患等により本検査が受けられなかった者を対象に「追検査」があることで、本検査を安心して受検できると思いますか。
- ・問 22 当日の体調不良を対象とした保健室受検や、けが等を理由とした別室受検があることで、本検査を安心して受検できると思いますか。
- ・問 24 選抜方法について、2段階選抜の制度は適当であると思いますか。
- ・問 25 新型コロナウイルス感染防止に関わらず、「郵送出願」を認めるべきだと思いますか。
- ・問 27 新型コロナウイルス感染症の罹患等により、「本検査」及び「追検査」を受けられなかった者を対象に、「特例検査」があることで本検査を安心して受検できると思いますか。

<今後も検討していく必要があるもの>

- ・問 7 入試を一本化したことにより、目的意識を持った受検生が受検したと思いますか。
- ・問 9 本検査の実施日は2月下旬で適切であったと思いますか。
- ・問 16 県が定める評定合計の標準値（95）を廃止したことは、入学者の選抜方法に良い影響を与えたと思いますか。
- ・問 17 調査書の加点の上限50点は適当だと思いますか。
- ・問 18 英語の検査時間を60分としていることは、英語の学力を測る上で必要だと思いますか。
- ・問 19 国語の聞き取り検査は、国語の学力を測る上で必要だと思いますか。
- ・問 23 選抜方法について、2段階選抜を使用しましたか。
- ・問 29 学力検査（5教科）の解答において、無解答とした問題の理由はどのようなことですか。

## 「今後も検討していく必要があるもの」についての追加資料

### 1. 調査書について

- ・記載内容、記載基準の設定を設けるか否か、加点方法等について、他県の情報を集めるなどしつつ、今後検討していく。
  - ・評定合計の標準値（9.5）について、中学校全学年での新しい3観点による評価の実施による評定平均値の推移を経過観察する必要性。
- ※3年間実施したアンケート調査以外の調査結果を基に、資料を作成し検討する。

### 2. 2段階の選抜の配点等について

- ・各学校における特色ある選抜となるよう、学校裁量の拡大等について

### 3. 学力検査について：国語聞き取り検査について（平成20年度選抜から導入）

#### （1）聞き取り検査実施の背景等

##### ○実施の背景

中学校国語科の最も基本的なねらいは、「伝え合う力」の向上を図ることである。

「伝え合う力」とは、適切に表現する能力と正確に理解する能力を基盤に、人と人との関係の中で、互いの立場や考えを尊重しながら「言葉」によって伝え合う力のことである。

また、「言葉」は、「確かな学力」を形成するための基盤であり、他者を理解し、自分を表現し、社会と対話するための手段であり、家族、友だち、学校、社会と子どもをつなぐ役割をも担っている。

中学校の国語で学習する内容には、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の3領域及び「言語事項」があるが、特に「話すこと・聞くこと」の領域においては、様々なことごとについて、話したり聞き取ったりすることで、言葉による表現力やコミュニケーション能力を高め、確かな学力を向上させる学習活動が行われている。

##### ○期待される効果

聞き取り検査の実施により、「話すこと・聞くこと」の力がどの程度身に付いているかが分かり、国語の力をさらに詳しくみることができるようになると考えている。

また、中学校生活において、子どもたちが人の話に耳を傾け、伝え合う力を高めることが期待される。

#### （2）中学校学習指導要領等について

中学校学習指導要領（平成10年12月告示、15年12月一部改正）

##### 第1 目標

国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を養い言語感覚を豊かにし、国語に対する認識を深め国語を尊重する態度を育てる。

平成20年度選拔出題方針より

ア 学習指導要領に基づき、三領域（話すこと、書くこと、読むこと）の基礎的・基本的な力がみられるようにした。

平成20年度選抜における問題の概要より

一 放送による聞き取り検査及び作文

(1) 内容把握 (2) 内容把握 (3) 内容把握 (4) 放送の内容についての作文

中学校学習指導要領（平成29年告示）

### 第1 目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- (2) 社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。
- (3) 言葉がもつ価値を認識するとともに、言語感覚を豊かにし、我が国の言語文化に関わり、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

### ○学習指導要領における重点内容

- ・導入時は、「話したり聞き取ったりすること」「課題を選び出すこと」「話したり聞き分けたりして、自分の考えを深めること」等の指導を通して、「中学校生活において、子どもたちが人の話に耳を傾け、伝え合う力」を高めることが求められていた。
- ・新学習指導要領では、「話に耳を傾けるだけでなく、相手の考えと比較しながら自分の考えをまとめたり、互いの立場や考えを尊重しながら合意形成に向けて話し合ったりするなど、双方向のやりとりの中で自己の考えを形成する力」が求められている。

⇒「話すこと・聞くこと」では双方向的に重点をおいており、実際、話し合いの過程では、「話すこと」と「聞くこと」に関する資質・能力が一体となって働くため、関連を図ることが重要だが、聞き取り検査ではどうしても「聞くこと」に偏った内容となってしまうことは否めない。そのため、平成31年度後期選抜以降、聞き取り検査以外の問題において、中学校で行われている言語活動を踏まえ、授業で読んだ文章について生徒同士が話し合う場面を設定し、内容の理解を深める出題を行っている。このことにより、聞き取り検査によらずとも「話す・聞く」力を総合的にはかることができる。

⇒上記の出題形式は、新学習指導要領で一層重視されている情報の活用能力をはかることもねらいとしている。令和5年度選抜本検査では、「情報の扱い方に関する事項」の正答率が低かったが、これは複数資料の分析を行い、読み取った内容を指定文字数内に簡潔にまとめるものであり、読み取った情報を整理し、自分の言葉で表現する力に課題があると考えられる。そのため、今後の入学者選抜においても、情報活用能力をはかる問題に重点をおく必要がある。

話し合う場面の問題例

次は、この文章を読んだあとに、森さんと原さんが表現の効果について話し合っている場面の一部です。これを読み、あとの(a)～(c)の問いに答えなさい。

森さん 私は、風の描写が印象に残ったな。最初は **I** 風が、次には **II** と表現されることで、緊迫感が増したよ。ここは陽菜と朋子の考え方の違いが明らかになる場面だから、会話の雰囲気にもびったりだ。

原さん そうね。私は、「私を包み込んでくれていた奥瀬見の自然が、わずかに牙を剥いている感じがする」が気になったわ。「感じがする」わけだから、あくまで陽菜の主観なのだけれど、だからこそ、この感覚の変化は陽菜の状況の変化と深い関係にあると思うわ。

森さん そうか。これまで自分を **III** ものだった奥瀬見の自然が、陽菜にとって違う意味を持ち始めたわけだね。

(a) **I**、**II** に入る言葉を、8ページ・9ページの文中から **I** は五字で、**II** は十一字で、それぞれ抜き出して書きなさい。

(b) **III** に入る言葉として最も適当なものを、次のア～エのうちから一つ選び、その符号を書きなさい。

ア 激励する    イ 誘導する    ウ 保護する    エ 隠蔽する

(c) 次は、森さんと原さんが感覚の変化は陽菜の状況の変化と深い関係にあるについて、考えをまとめた表です。

<b>Y</b>	に入る言葉を、	<b>X</b>	は三十文字以上、四十文字以内
<b>Y</b>	は漢字二字で書きなさい。		

(3) 国語聞き取り検査の結果等について 別紙参照

- ・国語検査の平均点は聞き取り検査導入前に比べ、低下している。
- ・聞き取り検査以外の正答率が低下している。

(4) 他県での実施状況

- ・千葉県以外では、青森県、秋田県が実施している。(令和5年度選抜)
- ・佐賀県：中学校学習指導要領において、国語では「目的や場面に応じ、社会生活にかかわることなどについて相手や場に応じて話す能力、表現の工夫を評価して聞く能力、課題の解決に向けて話し合う能力を身に付けさせるとともに、話したり聞いたりして考えを深めようとする態度を育てる」ことが目標の一つとして掲げられている。これまで、佐賀県立高等学校入学者選抜(一般選抜試験)の国語の学力検査では、この目標にある能力や態度を評価する方法の一つとして、放送による聞き取りテストを実施してきたが、「話す能力」や「話し合う能力」、また思考力・判断力・表現力などを含め、総合的かつ適切に評価するため、聞き取りによらない新たな形式の問題による評価を導入することとした。(聞き取り検査は廃止)

1 学力検査の平均点の推移 (※関連グラフ：ア)

	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R3	R4	R5
5教科の平均点	306.9	303.0	292.7	265.1	222.9	237.6	258.9	258.4	232.3	251.9	266.5	257.5	276.1	294.3	279.6	261.6	286.2	266.7	257.7
英語検査の平均点	60.5	66.1	51.7	51.0	40.1	48.4	52.1	54.2	50.6	54.2	55.9	50.3	53.7	59.7	53.6	54.6	61.7	58.7	47.6
理科検査の平均点	65.0	60.4	59.0	51.2	46.5	38.8	58.6	57.7	45.5	43.9	57.1	46.3	56.4	60.0	60.6	48.8	54.6	52.7	60.7
数学検査の平均点	53.1	52.5	54.3	51.5	46.7	45.7	48.8	43.2	46.5	52.6	46.9	47.4	51.4	58.5	54.5	51.4	59.3	51.5	47.0
社会検査の平均点	66.2	60.1	64.2	50.5	40.8	48.6	52.2	54.6	44.9	60.0	58.1	56.6	53.8	52.9	56.6	60.7	57.7	56.3	54.5
国語検査の平均点	62.2	63.8	63.5	60.9	48.8	56.1	47.1	48.7	44.7	52.3	48.5	57.0	60.8	63.2	54.2	46.0	52.8	47.7	47.9

聞き取り検査開始 → 前後期制 (H23年度～) → 一本化 (R3年度～)

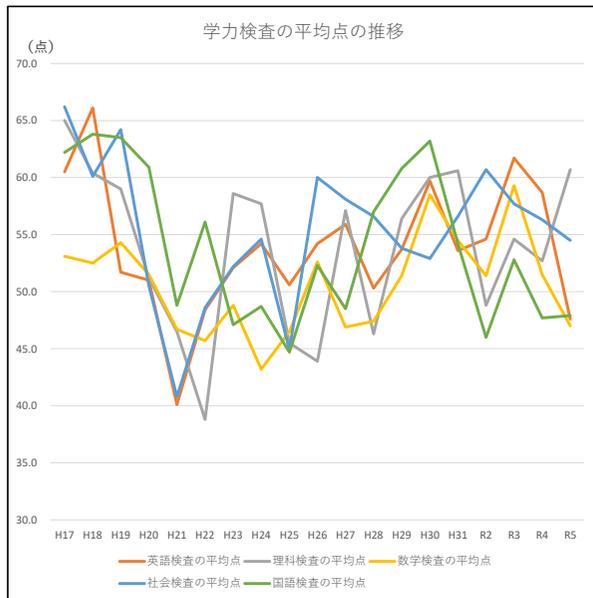
2 国語の学力検査における「聞き取り検査の正答率」及び「聞き取り検査以外の正答率及び無答率」 (※関連グラフ：イ及びウ)

	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R3	R4	R5
聞き取り検査(正答率)				58.7	48.1	62.3	67.6	44.8	62.7	61.6	42.4	78.1	66.9	71.9	83.1	59.4	60.4	80.6	72.2
その他の平均正答率	59.9	58.9	60.4	59.8	50.2	57.1	48.9	52.4	44.5	49.9	46.5	53.8	54.4	59.3	52.9	47.3	51.1	47.8	45.8
無答率	(データなし)						19.7	12.7	14.5	11.1	8.4	10.1	6.5	6.6	13.5	16.4	9.8	17.0	19.0

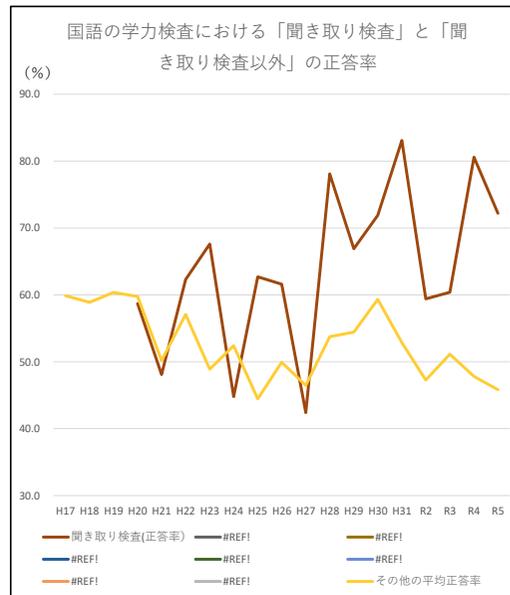
聞き取り検査開始 → 前後期制 (H23年度～) → 一本化 (R3年度～)

※ 上の1、2ともに、前後期制のH23～R2は前期選抜、R3以降は本検査のデータによる。

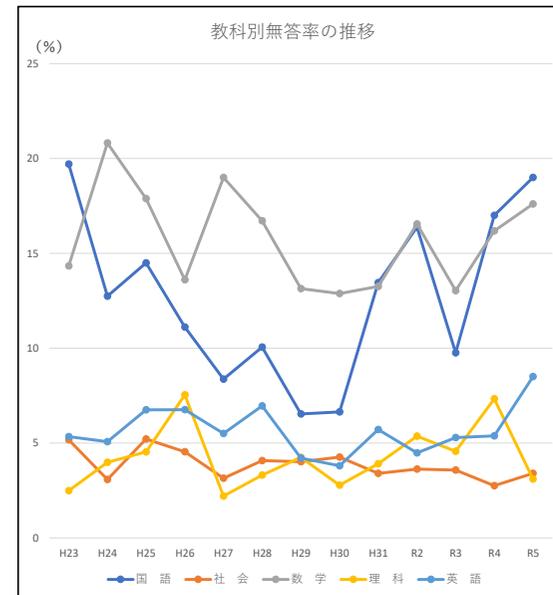
ア



イ



ウ



## 令和5年度 千葉県公立高等学校入学者選抜の受検に係る調査結果のまとめ

## 【まとめ】

**1 入学者選抜を一本化したことについて**（問4、5、6、7、10、11、12）

- (1) 中学校や高等学校での授業時数の確保について、生徒や中学校・高等学校長からは、8割程度の肯定的回答である。一方で、保護者からの肯定的回答は6割程度である。
- (2) 教職員の入試業務の負担が減少したかについて、公立中学校・高等学校長ともに、3年間にわたり8割を超える肯定的な意見である。一方で、高等学校長からの「そう思う」の回答が減少傾向にある。
- (3) 一本化したことによる、入試制度の不安について、実施回数を重ねるにつれて生徒・保護者ともに減少傾向にあり、入試制度変更による受検する高校の選択への影響も同様に減少傾向が見られる。
- (4) 目的意識を持った受検者が受検したかについて、公立高等学校長の肯定的な回答は半数程度に留まり、3年間大きな変化は見られない。

**2 入学者選抜の制度について**（問20、21、22、23、24、25、26、27）

- (1) 追検査・特例検査等の制度については、学校・生徒・保護者とも、3年間にわたり肯定的な回答が8割を超えている。
- (2) 2段階選抜について、公立中学校・高等学校長から、制度が適当であるかに対して8割前後の肯定的な回答であるが、肯定的な回答のうち、「そう思う」の割合は、高等学校長は5割以上である。一方で、中学校長は2割前後である。また、実際に使用したという回答は1割強以内に留まった。

**3 学力検査の日程について**（問8、9、15）

- (1) 2月下旬の本検査の実施時期についての肯定的な回答は、公立生徒、公立中学校長及び私立高等学校長は9割程度、保護者は8割程度、公立高等学校長は6割程度である。
- (2) 学力検査を2日で実施することについて、全体的に肯定的な回答が8割を超えた。傾向として、公立中学校・高等学校長の肯定的な回答は9割5分程度であったが、生徒及び保護者は9割をやや下回る程度であり、若干開きがある。

**4 調査書について**（問16、17）

- (1) 県が定める評定合計の標準値（95）の廃止について、公立中学校・高等学校長は共に、肯定的回答と否定的回答に二分されている。中学校長は肯定的回答が減少傾向にある。
- (2) 調査書の加点の上限50点について、公立中学校・高等学校長からの肯定的な回答が8割を超える。「そう思う」の割合が、中学校長に比べ、高等学校長の方が若干高い傾向にある。

**5 学力検査について**（問18、19、29）

- (1) 令和3年度選抜より、英語の検査時間が60分に変更となった。肯定的な回答は、公立生徒から8割程度、公立中学校長から6割強、高等学校長から7割強である。公立高等学校長の「そう思う」の割合が初年度に比べ10ポイント近く上昇している。
- (2) 国語の聞き取り検査が必要かについて、公立中学校長は肯定的回答が9割前後であるのに対し、公立高校長からは、3～4割程度の否定的回答も見られた。